

9月13日の米国株式市場の下落について 消費者物価指数の上振れでFRBのタカ派継続懸念が再燃

2022年9月14日

市場が織り込むFF金利の水準が急上昇

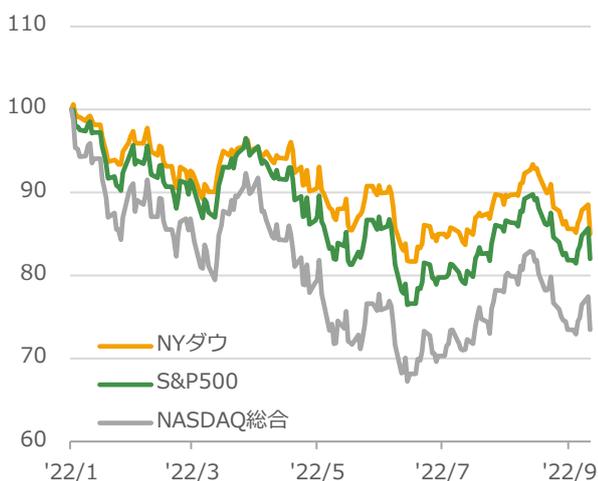
9月13日（現地、以下同様）の米国株式市場では、NYダウ、S&P500、ナスダック総合の主要3指数が4～5%程度下落しました。株価急落の要因は、朝方発表された8月CPI（消費者物価指数）の上振れです。

8月CPIは総合で前月比+0.1%（市場予想▲0.1%）、前年同月比+8.3%（同+8.1%）でした。また、変動の大きい食品・エネルギーを除くコアは前月比+0.6%（同+0.3%）、前年同月比+6.3%（同+6.1%）でした。総合で前月比マイナスを見込んでいたにも拘わらず結果はプラスだったことや、コアの上振れ幅が大きかったことなどを受けて、FRB（米国連邦準備制度理事会）が金融引き締め姿勢をより強化させるのではないかと懸念が高まり株価急落に至ったようです。実際、市場が織り込んでいるFF（フェデラル・ファンド）金利水準とみなされるFF金利先物をみると、2023年春頃の限月を中心に金利水準が9月13日の1日で大きく上昇しています。

ただ9月13日の株価指数の下落幅は、その直前4営業日合計の上昇幅程度にとどまっています。この4営業日は、9月FOMC（米国連邦公開市場委員会）での0.75%ポイント幅での利上げを含め、FRBの金融引き締め姿勢は織り込み済みとの幾分楽観的な評価がみられました。その楽観が修正されたことで、9月13日は下落幅が大きくなったと思われます。今後ですが、多くのFRB高官が金融政策について述べているのと同様に、当面は株式市場も「発表される経済データ次第」という状況が続くそうです。

米国主要株価指数

（2022年1月初～2022年9月13日）

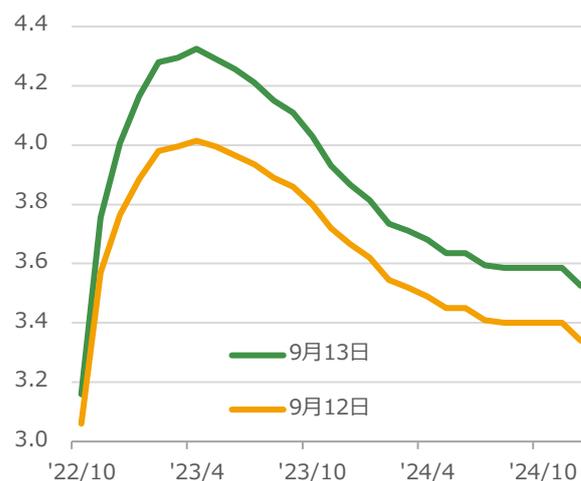


※2022年1月初を100として指数化

（出所）ブルームバーグ

FF金利先物

（%）（2022年9月12日・13日）



※横軸は先物の各限月を示す

（出所）ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management